

事例番号:350072

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 2 日

10:00 帝王切開目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 3 日

15:01 反復帝王切開のため帝王切開で児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 3 日

(2) 出生時体重:3300g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.32(気泡混入の可能性あり参考値)、BE 不明

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 7 日 退院

生後 10 日 活気不良、筋緊張低下、陥没呼吸、嘔吐あり、B 医療機関入院

細菌培養検査(血液、尿、髄液)で B 群溶血性連鎖球菌検出

連鎖球菌性髄膜炎、B 群連鎖球菌敗血症

(7) 頭部画像所見:

生後 4 ヶ月 頭部 MRI で脳室拡大を認め、右優位に多嚢胞性脳軟化症あり

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名

看護スタッフ:助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS 感染症により敗血症および細菌性髄膜炎を発症したことであると考える。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 既往帝王切開後妊娠のため妊娠 37 週 3 日に選択的帝王切開としたことは選択肢のひとつである。

2) 分娩経過

(1) 既往帝王切開のため、帝王切開目的で入院時の対応(分娩監視装置装着、パルスドップラー測定)は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

保護者の意見からは、当該分娩機関の対応に対する不信、不満があると思われるので、十分な説明を行う体制を整えることが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

遅発型 GBS 感染症に対する疫学的調査、予防・診断・治療に対する知見の集積が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。